

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月12日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
 コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 徳田 一
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 桐生 慶久
 四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日
 配当支払開始予定日 —

TEL 03-5530-3055

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	20,220	90.9	3,443	—	1,411	—	787	—
21年3月期第2四半期	10,593	—	△7,242	—	△553	—	△1,294	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	9.85	—
21年3月期第2四半期	△16.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	140,551	113,701	80.8	1,420.66
21年3月期	145,761	112,838	74.7	1,362.23

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 113,560百万円 21年3月期 108,889百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,000	190.1	12,000	—	12,000	—	20,000	—	250.20

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社 (社名

) 除外 3社 (社名

アルゼマーケティングジャパン株式
会社、Aruze Gaming America, Inc., A)
ruze Gaming Australia Pty Ltd

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 80,195,000株 21年3月期 80,195,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 260,405株 21年3月期 260,363株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 79,934,605株 21年3月期第2四半期 79,934,859株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年8月7日に公表いたしました連結業績予想のうち、通期について修正しております。詳細は、本日別途公表いたしました「業績予想の修正及び特別利益の発生に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

世界経済は昨年9月のリーマンショック以降に深刻化した金融危機により、実体経済の停滞が継続しており、世界的な経済は不安定な状況となっております。各国における経済刺激政策にもかかわらず、欧米及びわが国は経済の低迷から脱却ができず、かたや、中国やオーストラリアにおいては内需を中心に景気の回復の兆しがみられております。わが国の経済も、在庫調整が進みつつありますが、失業者の増加を食い止めることが出来ず、今期第2四半期連結期間における世界経済は未だ混迷を極めております。

このような環境の中、当社グループは平成21年5月に販売を開始した「緑ドン」、「銀河英雄伝説」をはじめとする人気機種の開発に成功し、順調に売上台数を伸ばしております。売上高は前年同期比ほぼ倍増の20,220百万円（前年同期比、90.9%増）、営業利益は3,443百万円（前年同期 営業損失7,242百万円）と黒字転換いたしました。「緑ドン」は、40千台を超える販売実績をあげ4～9月期で非常に高い評価を頂く結果となりました。加えて、9月末に発売した「銀河英雄伝説」も、9月の決算間近の短期間の販売ではありましたが、5千台に達する売上を記録し、10月に入ってから同商品の販売は継続しております。このように当社はパチスロ5号機の中で、安定した機種を次々と市場投入しており、パチスロ事業を中心とする当社グループの国内事業は大きな改善を見せております。前期の赤字体質から完全に脱却し、パチスロの人気機種の開発メーカーとして市場での確固たる評価につなげることが出来ました。また、11月3日に販売納入を開始した「青ドン」も現時点で好調な受注を受けております。

また、経常利益および当期純利益につきましても、それぞれ経常利益1,411百万円（前年同期 経常損失553百万円）、当期純利益787百万円（前年同期 当期純損失1,294百万円）と、いずれも前年同期の赤字から大きく業績を改善し、黒字転換いたしました。なお、営業外費用として約23億円が発生しておりますが、これは当社グループの持分法適用関連会社であるウィン・リゾート社(NASDAQ: WYNN)が前々期中中に自己株式の取得を行ったことにより発生したのれん相当額の償却費約17億円が主たる要因であり、これは会計上の償却費用として計上されております。ウィン・リゾート社は今期の1月～6月での中間期においては、昨年12月末にオープンしたアンコール・アット・ウィン・ラスベガスの開業コストが影響し、若干の赤字を計上しておりますが、業績は着実な回復傾向にあります。このような中、同社は1株あたり4米ドルの特別配当を決定いたしました。

なお、当社グループの事業別の業績概要は以下の通りとなります。

①パチスロ・パチンコ事業

パチンコ機の市場ではギャンブル性の魅力を持たせたMAX機を主軸にパチンコ機は昨年から活気を見せていたものの、今期に入りMAX機のユーザー離れが顕著になり、市場動向に大きく変化が見られました。過激なMAX機に対抗するかのようになり、パチンコの単価を下げ、低玉貸し営業を導入する店舗の増加が全国的に見られました。このようにパチンコ機はMAX機を特色とする営業から低玉機導入へと変化を見せ、若干の玉単価の低価傾向を見せております。一方パチスロ機は、今期2四半期期間での市場でのパチスロ導入台数（新台）は約38万9千台であり、前年同期比約89.9%の水準と低迷しているものの、当社においては人気機種開発に力点を置き、市場の低調ぶりにもかかわらず当社パチスロ機は好調な滑り出しを見せました。5月下旬に導入設置を開始したパチスロ機『緑ドン』の人気は市場を牽引する形でパチスロ市場全体の稼働上昇の傾向を作り出しました。この結果、市場においては、パチスロ機の見直し気運の影響を与え、今期後半では再びホール運営におけるパチスロ機の位置づけが見直される傾向にあります。

このような状況のもと当社グループはパチスロ機3機種での市場投入をおこないました。その中でも『緑ドン』は、40千台を超える販売実績をつくり4～9月期で人気機種として非常に高い評価を頂く結果となりました。また9月下旬には『銀河英雄伝説』を市場投入しました。10月に入ってから同商品の販売は好調に推移しております。銀河英雄伝説ではMBS(マシンガンボーナシステム)と称される業界初のゲーム性を導入、新しい遊技性として遊技者の間で話題となっています。また『デュエルドラゴンキングダム』を加えた3機種で、今期2四半期期間におけるパチスロ機の販売台数42千台、ソフト交換サービス5千台、合計47千台となっております。

②その他の事業

当社グループのメディアコンテンツ事業のアルゼメディアネット株式会社では、主力事業である携帯コンテンツサービスにおいて、当社のパチスロ機「緑ドン」の発売に連動したコンテンツを展開することによって40%強売上が増加しました。「アルゼ王国」サイトの有料会員数の推移も堅調に保ちながら、会員への更なるサービス強化を図っております。

スカパーTV!専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を放送する日本アミューズメント放送株式会社は、ネット配信や番組のDVD化等による二次配信事業の拡大を積極的にすすめ、視聴者増加へとつなげています。

当社グループの持分法適用関連会社であるウィン・リゾート社の今期1月～6月の中間期では、昨年12月末にオープンしたアンコール・アット・ウィン・ラスベガスの開業コストが影響し、約8,335千米ドルの純損失を出したものの、ウィン・マカオ社は好調に推移しております。また前々期中中にウィン・リゾート社が自己株式の取得を行った

ことにより発生したのれん相当額の償却額約17億円等を含めた会計処理を行ったうえで、持分法投資損益として当社グループの連結損益計算書に反映しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末における総資産は、140,551百万円（前期末比5,210百万円減）となりました。主な増減要因は、原材料及び貯蔵品が4,079百万円増加したものの、現金及び預金が2,687百万円、商品及び製品が2,442百万円減少したことなどであります。

負債は26,850百万円（前期末比6,073百万円減）となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が5,031百万円増加したものの、借入金7,752百万円、社債が600百万円減少したことなどであります。

純資産は113,701百万円（前期末比863百万円増）となりました。主な増減要因は、少数株主持分が3,799百万円減少したものの、株主資本のうち利益剰余金が787百万円、株価や為替などの変動から生じる評価・換算差額等が3,884百万円増加したことなどであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

①パチスロ・パチンコ事業

創業40周年を迎える今期、当社は11月に「株式会社ユニバーサルエンターテインメント」と名称変更をいたしました。当社グループは、今期から開発力の強化を進めておりますが、この基本はユニバーサル時代に培われたものをより深く掘り下げ、これまで「技術のアルゼ」として、機械の出玉特性による差別化をもってパチスロ業界に確固たる地位を築いてまいりましたが、既にパチスロ開発技術が成熟し販売数の増加は市場での競争激化を呼び、格差をつけるためには遊技者の体感を重要視した機械の開発が重視されます。“機械特性の時代から体感の時代へ”をキーワードに市場シェア回復を目指してまいります。

今回11月3日より導入を開始した『青ドン～花火の極』はパチスロ市場で評価を得た実績があるキャラクターとしての『ドンちゃん』を擁し、4号機時代の有名機として一世を風靡した『ハナビ』の流れをくむ機械となっております。当社独自のリール制御、そして業界初の光ファイバーを使用することにより、業界初の技術力でハーネスを排除しました。遊技性においてもリールでの完成度とともに、映像表現力は新時代を感じさせるマシンとして当社の自信作であります。また、市場での反響も大きく、既に40千台を超える受注が確定され、好調に推移しております。通期ではこの「青ドン」、9月末に発売した「銀河英雄伝説」およびこれら以外にもパチスロ機3機種種の発売を予定しており、売上への貢献が期待されます。

②その他の事業

アルゼメディアネット株式会社では、既存事業である携帯コンテンツサービスの「アルゼ王国」において、新機種種の販売と連動したクオリティの高いアプリケーションを提供しながら運営面の更なる強化を図ってまいります。また、収益増が見込みづらい分野についても、改善策を行い、収益の確保に努めてまいります。また、新規事業の一環としてすすめているマーチャンダイジング（商品化）事業の幅をさらに広げ、ファンの方々へのサービスを拡大してまいります。

日本アミューズメント放送株式会社では、10月からの大幅な番組編成に伴い、今後も市場動向や定期的な視聴者アンケートを反映した番組編成、制作を行ってまいります。

ウィン・リゾーツ社が米国時間の10月27日に、7月～9月期決算を発表しております。前半の損失に対して、第3四半期では純利益約34,210千ドルを計上し、第1四半期（1月～3月期）の約33,814千ドルの純損失から第2四半期（4月～6月期）では約25,479千ドルの純利益を計上し、マカオでの市場回復により著しく改善を見せてきております。

なお、ウィン・リゾーツ社の子会社である ウィン・マカオ社が平成21年10月9日に香港証券取引所に上場、公募増資を行いました。ウィン・マカオ社の公募増資への投資家の関心は非常に高く、公募価格は募集仮条件の上限である10.08香港ドルとなり、資金調達額は1,500億円に達し、成功裏に終了いたしました。この公募増資に伴い、当社グループのウィン・リゾーツ社に対する持分（19.9%、筆頭株主）相当の特別利益が発生する見込みです。特別利益の額の一部は配当予定を現状見込んでおります。当期純利益予想額を20,000百万円に上方修正いたします。

ウィン・マカオ社の公募増資が高く評価されたこと、また主にマカオ市場での業績回復傾向が顕著であることから、ウィン・リゾーツ社の株価は平成21年7月の約30米ドルから大きく上昇しております。米国時間11月10日の終値は64.09米ドルとなっており、時価総額の当社グループ持分（筆頭株主として19.9%を保有）相当額は約1,400億円となっております。

また、ウィン・リゾーツ社は米国時間の11月6日の取締役会で、潤沢な資金を背景に1株あたり4米ドルの特別配当を決議いたしました。当社グループは筆頭株主としてウィン・リゾーツ社の株式を24,549,222株保有しておりますので、当社グループとして約90億円の現金配当収入が予測されます。またウィン・リゾーツ社は同時に、平成22年以降も普通配当を行うことも決議しております。

なお、フィリピンにおけるカジノリゾートプロジェクトについては、現在 PEZA（フィリピン経済区庁）への優遇税制適用の申請を済ませており、またプロジェクトに必要な土地も全て取得済みであり、現在プロジェクト進行のための最後の詰めを行っている状況です。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

第1四半期連結会計期間より、アルゼマーケティングジャパン株式会社は当社が吸収合併したため、Aruze Gaming America, Inc.、及びAruze Gaming Australia Pty Ltdは、当社が保有する株式をすべて売却し、主要な取引を解消したことなどにより連結の範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,761	14,448
受取手形及び売掛金	4,399	5,552
有価証券	4	132
商品及び製品	812	3,254
仕掛品	3,032	3,762
原材料及び貯蔵品	21,728	17,649
その他	6,013	7,622
貸倒引当金	△85	△116
流動資産合計	47,667	52,305
固定資産		
有形固定資産		
土地	34,250	33,635
その他(純額)	7,020	7,913
有形固定資産合計	41,270	41,548
無形固定資産		
のれん	336	410
その他	289	356
無形固定資産合計	626	766
投資その他の資産		
投資有価証券	47,457	46,972
その他	5,980	6,663
貸倒引当金	△2,451	△2,494
投資その他の資産合計	50,986	51,141
固定資産合計	92,883	93,456
資産合計	140,551	145,761

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,091	1,060
短期借入金	12,709	20,063
1年内返済予定の長期借入金	385	783
1年内償還予定の社債	800	1,200
未払法人税等	91	162
賞与引当金	184	169
その他	3,298	5,509
流動負債合計	23,559	28,949
固定負債		
社債	1,800	2,000
その他	1,490	1,974
固定負債合計	3,290	3,974
負債合計	26,850	32,923
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,446	3,446
資本剰余金	7,503	7,503
利益剰余金	118,986	118,199
自己株式	△1,637	△1,637
株主資本合計	128,299	127,512
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4	5
為替換算調整勘定	△14,743	△18,628
評価・換算差額等合計	△14,739	△18,623
新株予約権	141	149
少数株主持分	—	3,799
純資産合計	113,701	112,838
負債純資産合計	140,551	145,761

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	10,593	20,220
売上原価	5,675	9,178
売上総利益	4,918	11,042
販売費及び一般管理費	12,160	7,598
営業利益又は営業損失(△)	△7,242	3,443
営業外収益		
受取利息	268	53
受取配当金	262	7
為替差益	—	143
持分法による投資利益	6,713	—
その他	103	76
営業外収益合計	7,348	281
営業外費用		
支払利息	98	520
為替差損	481	—
持分法による投資損失	—	1,769
その他	79	22
営業外費用合計	659	2,313
経常利益又は経常損失(△)	△553	1,411
特別利益		
前期損益修正益	92	103
固定資産売却益	3	—
関係会社株式売却益	183	—
貸倒引当金戻入額	70	28
その他	28	22
特別利益合計	377	153
特別損失		
前期損益修正損	24	3
関係会社株式評価損	57	—
減損損失	32	—
持分変動損失	162	121
その他	8	47
特別損失合計	284	173
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△459	1,392
法人税、住民税及び事業税	434	37
法人税等還付税額	—	△58
法人税等調整額	400	625
法人税等合計	834	605
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,294	787

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) 重要な後発事象

1. 持分法による利益の発生について

当社の持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社の子会社であるウィン・マカオ社が平成21年10月9日に香港証券取引所に上場、公募増資を行いました。この公募増資に伴い、当社グループのウィン・リゾーツ社に対する持分相当（19.9%、筆頭株主）の利益が発生する見込みであります。

2. 持分法適用関連会社による配当の実施について

当社の持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社は、平成21年11月6日の取締役会において（株主還元策の一環として）配当を行うことを決議いたしました。

(1) 配当金の内容

- ・ 1株あたり配当金 4米ドル
- ・ 配当基準日 平成21年11月19日
- ・ 支払予定日 平成21年12月3日

(2) 当社の連結子会社の保有株式数

24,549,222株(平成21年11月12日現在)

(3) 損益に与える影響額

第3四半期連結会計期間以降の損益に与える影響はありませんが、当社の連結子会社に支払われる配当により現金及び現金同等物が増加し、持分相当額が減少することとなります。